観 察 記 録

仏沼干拓地で繁殖期に観察されたシマクイナについて

宮 彰男¹・三戸貞夫²・蛭名純一³・関下 斉⁴

¹ 特定非営利活動法人おおせっからんど会員 〒039-1166 八戸市根城9丁目27-6

² 特定非営利活動法人おおせっからんど会員 〒031-0801 八戸市江陽1丁目9-2

³ 特定非営利活動法人おおせっからんど会員 〒019-2567 七戸町字鶴児平1番地

⁴ 特定非営利活動法人おおせっからんど会員 〒031-0813 八戸市新井田丑鞍森32-9

(2005年5月9日受付; 2005年9月4日受理)

1. 種名: シマクイナ *Coturnicops noveboracensis exquisitus*

2. 観察者名: 宮 彰男・三戸貞夫・蛭名純一・関下 斉・小田英昭

3. 観察日時・場所: 2003年7月5日から9月13日, 2004年6月4日から11月3日. 青森県三沢市東北部, 小川原湖と太平洋に挟まれた仏沼干拓地.

4. 観察距離: 目視の場合は数m. 鳴き声による場合は約100m.

5. 観察環境: 2004年8月16日に, 鳴き声を確認した箇所のうち植生が異なると思われる6地点を選び, 各地点に5m×5mのコドラートを設置し, ブラウン-ブランケの植物社会学的方法により植生調査を行った. 植物の種構成は10種前後がほとんどで, 高茎草本層がヨシ *Phragmites australis* の場合が4地点, ヤマアワ *Calamagrostis epigeios* の場合が1地点, フトイ *Scirpus tabernaemontani* 等の場合が1地点であった. 高茎草本層等の草丈は0.9~1.25mで, 平均1m前後, 植被率は20%以下であった. これらの地点では, 高茎草本層の草丈が中程度で密度がまばらなため低茎草本層が発達しており, 植被率70~100%であった. 土壌は湿または過湿であり, 1調査地点では地上数cmの水位があった. シマクイナのこのような生息環境はオオセッカの営巣環境と重なっていた.

6. 形態に関する記述:

7. 計測値:

8. 種を同定した基準: からだを左右に扁平にしてくさむらるを大きな趾を交互に出してくぐりぬけるように歩き, 走り去るときは頭部や尾を低くしてネズミのようであった. これらの形状から一見して小形のクイナ科の鳥だと判断された. 嘴は

黄緑色味がかった. 後頸, 背から上面は茶褐色で黒色の縦斑があり, 白色の細い横斑が認められた. 次列風切羽が白く見えた. これらの目視結果と撮影された写真は清棲 (1978) のシマクイナの記載と一致しており, シマクイナと同定した. 習性がよく似ているといわれるヒメクイナとは鳴き声が異なること, 次列風切羽が白いことなどから区別した.

9. 観察した行動: 2003年にシマクイナがいつ鳴き始めたかは不明だが, 終認日は8月16日であった. 鳴き声が聞かれた場所は9箇所だった. 2004年の鳴き声初認日は6月4日, 鳴き声終認日は8月10日で14箇所でも鳴き声が聞かれた. 両年とも最大3個体が同時に鳴いていた.

石川県でシマクイナを飼育した長柄他喜男氏によれば, キョッ, キョロルルルーと鳴くとある (清棲 1978). MacKinnon *et al.* (2000) は地鳴きを記載しているが, 野外の繁殖期の鳴き声の確かな報告はない. 北米に分布するシマクイナ *Coturnicops n. noveboracensis* の繁殖期のオスは金属的なカチツという音の連続からなり, 2個の小石を打ち合わせて簡単にまねられる声で鳴くとある (Taylor & van Perlo 1998).

今回記録した5種類の鳴き声 (A型, B型, C型, D型, E型) は, 上述のいずれの声とも異なる特徴的なものであった (図1). A型 (2004年6月11日録音) はクルの1音またはクル・クルの2音で, 鳴き声終認日まで聞かれた. B型 (2004年6月11日録音) はプリリリリーと尻すばみのやわらかい音質の声であった. 2004年6月7日から18日まで1個体だけが鳴き, この個体は他の鳴き声を発しなかった. 6月11日にはプリリリリーという声を発しながら上空を旋回するのが観察された.

図1. シマクイナの5パターン(A型, B型, C型, D型, E型)の鳴き声. 仏沼干拓地で録音したものを上田秀雄によってソノグラムに表した. 図の上段は声の周波数の時間的変化で縦軸は周波数(kHz), 横軸は時間(ms). 下段は声の振幅図で縦軸は強さ(μPa), 横軸は時間(ms).

Fig. 1. Sonograms of five types (type A, type B, type C, type D, type E) of Yellow Rail calls. Calls were recorded in Hotokenuma Reclaimed Land and analysed by Hideo Ueda. Upper figures show frequency variation (y-axis; kHz, x-axis; msec) and lower figures show amplitude variation (y-axis; μPa , x-axis; msec).

図2．次列風切を小刻みに震わせ、白い部分を誇示しているシマクイナ．
Fig. 2. A Yellow Rail quivering and displaying its white secondaries.

C型（2004年7月22日録音）はA型の鳴き声の後にガーという声を入れて、クル・ガーまたはクル・クル・ガーと鳴く声だった。ガーという声は濁った声で音量もクルに比べて小さかった。100 mぐらい離れたところではガーという声はまったく聞こえず、クルという声がわずかに虫の音のように聞こえた。この3種類の鳴き声が聞かれたのは主に夜間で、日没直後の時間帯に鳴き始めると明け方まで鳴いていたが、2004年の鳴き始めのころには21時ごろから鳴いたり、まったく鳴かない夜もあった。D型（2003年8月11日録音）はキリリューという甲高い声であった。2003年7月14日にはこの声を発しながら次列風切の白い部分を目立つように見せ小刻みに震わせている個体を観察した（図2）。E型（2004年7月24日録音）はC型のクル・クル・ガーの鳴き声に似ているが、ガーの部分長く伸ばし唸るような声であった。ガーは濁った声で音量はクルという声に比べてかなり小さかった。2004年8月9日に観察した個体はE型の鳴き声を発するときに立ち止まり、喉をふくらませて鳴いた。

日中シマクイナを観察するのは困難だったが、夜間鳴いている個体には数mの距離まで近づくことができた。本種の歩き方は首を前に出し前傾姿勢で密生した草むらの中を素早く移動し、その動きはネズミが走る動きに似ていた。また流れのな

い幅約40 cmの水路を泳いで横切るのを観察した。飛び立つ場合は、バサッと羽音をたてながら垂直方向に飛び上がり、ひらひらと蝶のような飛翔でストンと落ちるように着地した。

10．写真あるいは写真の有無：写真あり（図2）。図2は2003年7月14日に撮影された。

11．死体・標本保管場所：

12．過去の記録とその文献：青森県下北郡尻屋崎 1932年6月30日（清洲保幸 1978）。青森県東津軽郡三厩村 1989年4月19日（青森自然誌研究会 1996）。

13．その他：

14．考察：日本に冬鳥として渡来するシマクイナは、日本鳥類目録改訂第6版（日本鳥学会 2000）では北アメリカとユーラシアに分布する *Coturnicops noveboracensis* のユーラシア産亜種 *C. n. exquisitus* に分類されている。一方 BirdLife International (2001) や 2004 IUCN Red List of Threatened Species (<http://www.redlist.org/>) では、この亜種を独立種 *Coturnicops exquisitus* として扱っている。改訂版日本産鳥類レッドデータブック（環境省 2002）では絶滅危惧Ⅱ類に分類されている。本亜種は南東ロシアと北東中国の湿地で繁殖し、モンゴル、日本、北朝鮮、韓国、中国南部と東部で渡り途中に通過あるいは越冬する (BirdLife International 2001) と記載されている。

われわれは仏沼干拓地で2003年と2004年の繁殖期に複数のシマクイナの生息を観察した。シマクイナがいつから仏沼干拓地に生息するようになったか不明であるが、2003年から2年続けて繁殖期に複数個体が観察されたことは、繁殖の可能性が高い。野外での鳴き声が広く認識されれば、今後仏沼干拓地以外の湿地でも繁殖期の生息が確認される可能性がある。

本稿をまとめるにあたり、上田恵介氏にご指導いただいた。叶内拓哉氏、上田秀雄氏に調査と鳴き声の分析に協力いただいた。俵昌芳氏、若月直子氏、篠田悟氏に植生調査の協力をいただいた。大江千尋氏に資料の提供をしていただいた。久保益男氏、麦沢勉氏、三宅源行氏に調査の協力をいただいた。厚くお礼申し上げる。

本研究の一部は、環境省東北自然保護事務所委託2004年度仏沼環境基礎調査及び、2005年度仏沼環境基礎調査で行った。

引用文献

Taylor B & van Perlo B (1998) *Rails: A Guide to the Rails, Crakes, Gallinules and Coots of the World*. Pica Press,

Sussex.

BirdLife International (2001) *Threatened birds of Asia: the BirdLife International Red Data Book*. BirdLife International, Cambridge.

青森自然誌研究会 (1996) 青森自然誌研究 (1). 青森自然誌研究会, 青森.

環境省 (2002) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物2: 鳥類. 自然環境研究センター, 東京.

清棲幸保 (1978) 増補新訂版日本鳥類大図鑑 II. 講談社, 東京.

MacKinnon J, Phillipps K & Fen Q (2000) *A Field Guide to the Birds of China*. Oxford University Press, Oxford.

日本鳥学会 (2000) 日本鳥類目録改訂第6版. 日本鳥学会, 帯広.

A Survey Report on Yellow Rail (*Coturnicops noveboracensis exquisitus*) observed during the breeding season at Hotokenuma Reclaimed Land in Misawa, Aomori Prefecture. Akio Miya (member of NPO Oosekkarando, 9-27-6 Nejo, Hachinohe, Aomori, 039-1166 Japan), Sadao Sannohe (member of NPO Oosekkarando, 1-9-2 Koyo, Hachinohe, Aomori, 031-0801 Japan), Junichi Ebina (member of NPO Oosekkarando, 1 Tsurunokodaira-Shichinohe, Kamikita, Aomori, 019-2567 Japan), Hitoshi Sekishita (member of NPO Oosekkarando, 32-9 Ushikuramori-Niida, Hachinohe, Aomori, 031-0813 Japan)